町家が美術館に変わる

～河原町通り無電柱化完成記念～

丹波篠山・まちなみ アートフェスティバル

国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている河原町の歴史的な「妻入商家群」で、町家や町並みを生かして現代のアートを紹介する「丹波篠山・まちなみアートフェスティバル2022」が９月に開催されました。今回はこのイベントを取材しましたのでお知らせします。

受け継がれた町の魅力を後世に

２００９(平成21)年に開催された「丹波篠山築城４００年祭」を機に新しい芸術の祭典として誕生した丹波篠山・まちなみアートフェスティバル。

美しい町並みと芸術を融合させて、地域の活気をつくることを目的にスタートしました。中西薫実行委員長は、「歴史薫る町並みを大切に守ってこられた住民の努力の恩恵にあずかり、町の文化を生かしてさらに潜在的な魅力を広げ、後世につなげていければ」とその思いを話されます。

伝統の町並みにアートの華

同フェスは今年で8回目。近年は隔年開催をされています。会場は、城下町篠山、河原町妻入商家群を中心とした町家27軒。町家を改修したカフェや古民家ホテル、町家に住む住民の皆さんも協力します。作品は市内外から46人の作家が集まり、陶芸や絵画、造形、書、写真、木工などのアートで町並みは彩られました。

城下町×アート

私は毎回、この開催を観光客の一人としてワクワク・トキメキながら楽しませてもらっています。今年は、電柱が消え空が広く妻入商家の町並みと青空がとても美しいアートのようでした。町の方々の努力により江戸時代から続く町家や町並みが輝き、全国からの注目度も高まっています。

市民の皆さんもぶらりと町歩きを楽しんでみませんか。次回の開催をお楽しみに。

リポーター 畑弘恵(はたひろえ)さん

町家と作品の融合　アート演出に挑戦！

「人生遠回り」をキャッチフレーズに大学で美術工芸を学んだ後、世界一周しながら伝統工芸に触れ、現在丹波焼の窯元「昇陽窯」で作陶しながら、各地でも個展活動をされている大上裕樹(おおがみゆうき)さん。自分の作品と町家をどのように融合させるかに工夫を凝らし、作品と空間を最大限に演出されていました。

丹波篠山の豊かな自然と文化をアートに

著名作家から若手作家まで、それぞれの感性と古建築に融合させるかたちで表現されたアートフェスティバル。招待作家として出展された芸術写真家のKoichiro Kurita(コーイチロー クリタ)さんは、米ニューヨークを拠点に活躍し、２年前に丹波篠山市に移住。福住でアトリエを開き活動されています。今回の初出展には、古民家でのインスタレーション(空間芸術)に竹なども用い丹波篠山の特色に工夫を凝らし演出されていました。

町と人とアート

第１回から実行委員として、また作家として各地からのアーティストをつなぎ、アートフェスティバルを盛り上げてこられた河原町在住のほんいでんすみよさん、水上雅章(みずかみまさあき)さん。「アートの持つ力で町おこしをしたい、アートで人をつなぎたい」と話されました。アートフェスティバルのほかにも、暖簾や交通安全標識など美術活動で活躍されており、アートの持つ魅力で人の心が動くのだと意識づけられました。

ここでしかできない貴重な機会

27年間、絵日記を描き続けられているという片山啓(かたやまけい)さん。今回の展示は町家独特のこの空間を見た瞬間に浮かんだイメージを元に、過去の絵日記のイメージを立体的に表現することを試みたそうです。作品を見ると一瞬ハッとしますが、アートにはいろいろなドラマがあり、見る方によっても見方次第でもさまざまな楽しみ方があり、とてもおもしろいのがアートの魅力だと感じました。